

地域おこし協力隊 活動計画書

2年目の活動

苫前町地域おこし協力隊

田淵貴大

1年目の活動総括

主な活動実績

- ・ 6月JP01祭（札幌チカホ）甘酒販売
- ・ 友好都市三重県桑名市名産品販売
- ・ 移住サイト「SMOUT」から河原田さんにつながる。
- ・ 苫前商業高校卒業生森井さんとInstagramでつながる
- ・ 漁業・農業の就業体験の実施
- ・ AIについて勉強、ツールを使い始める
- ・ FMもえる「キラリるもい人」ラジオ出演！

得られた成果

- ・ 3日間合計186杯販売 売上62,650円達成
- ・ 7月風車祭り：19,900円
- 8月地域おこし企画：59,400円
- 合計 79,300円売上済
- ・ 5月から地域おこし協力隊メンバーに仲間入り
- ・ 令和8年度4月より地域おこし協力隊インターン生として共に活動
- ・ 生成AIプロンプトエンジニア学科試験合格

気づきと課題

1年間の活動を通じて、地域に馴染むことを軸に動いていきました。少しずつ顔も覚えてもらい自然と声かけられるようになったが、地域おこし協力隊としての存在感だったり活動の詳細については認知が低かった。

活動や苫前に住んでみてのリアルや移住を考えてる人、苫前を知らない人向けに、興味を引かせるようなきっかけ作りや本質をもっと探っていく必要がある。

【イベント出店】



【イベント出店】



第一次産業体験 × 地域交



第一次産業就業体験 × 地域交流



2年目の活動目標：地域プロデューサー実現への道

ふるさと納税 × 特産物プロモーション



目的

苦前町ふるさと納税・活性化プロジェクトの目的

1. 制度の変化を追い風に：進化する返礼品戦略

ゼロ知識からのスタートとしてまずは、制度の仕組みを深く理解し、全国の方々に「応援したい！」と選ばれ続ける、苦前の返礼品PR強化に繋げる。

2. 「モノ」から「ストーリー」へ：特産物の価値再発見

苦前の食は、風のまちと言える豊かな自然と、生産者皆様の情熱によって育まれています。ただ特産物を送るのではなく、その背景にある歴史や生産者の想い、美味しい食べ方のストーリーを言語化する。

昨年と同様イベントで苦前の特産物を知らない方に向け全国へ届けます。皆様が日頃誇りに思っている苦前の「深み」を、全国の食卓へ伝えていきます。

3. 「タコラーメン」に続く、新たな町の顔づくり

MEN-EIJIさんで好評をいただいた「苦前タコラーメン」の人気繁盛をモデルに、次なるご当地グルメの開発に取り組んでいく。苦前の新たな魅力を引き出す新メニューを創出し、町外の方々が「これを食べるために苦前に来たい！」と思ったださるような、強いブランドを育てます。

4. 町内こそが一番のファンに：現地で楽しむ機会の創出

私たちの最終的な目標は、ふるさと納税を通じて、実際に苦前に足を運ぶ機会を増やすことです。観光客の方だけでなく、町民の皆様にも、改めて地元の特産物の素晴らしさを再発見し、町内の飲食店やイベントで地元の味を味わう機会を増やしていきたいと考えています。

具体的な活動内容：苦前町ふるさと納税額向上への誘導、特産品PR強化による苦前町の認知拡大

2年目のアクション

- 1 ふるさと納税の目的の学びや制度理解
- 2 返礼品新商品、ご当地グルメの開発
- 3 町内×町外での特産品PRイベントの企画
- 4 プランナーの右腕としての現地対応（食材発注×発送など）
昨年引き続きイベント支援
- 5 資格習得（地域観光士、マーケティング検定）

期待される効果

経済的自立への足がかり

町民やサポーターの業務をサポートしながら
自分のできることを増やして収入化に繋げる。

地域の誇りの再発見

生産者の作った特産品のストーリーなどを更
に言語化して伝えられるようになることで、
苦前の特産物の存在や魅力を食べて実感し、
たくさんの人に知ってもらう機会を作る

結び

「点」を「面」へ、そして「理想の実現」へ。
2年目、さらなる進化へ。

1年目に蒔いた種を、2年目は確かな実りへと育て上げるよう精進します。

苫前町の一員として、今年度も町をPRしていき昨年よりもさらに貢献できるよう努めて参ります。

ご清聴ありがとうございました。